

4-5 みかげ通り

魅力ある夜間景観形成の視点

- ・昼と同じように夜もにぎわいを感じる通り
- ・歩きたくなるような回遊しやすい雰囲気づくり
- ・足元の明るさを確保できる光源の設定
- ・建物低層部と歩行空間の一体的な夜間景観

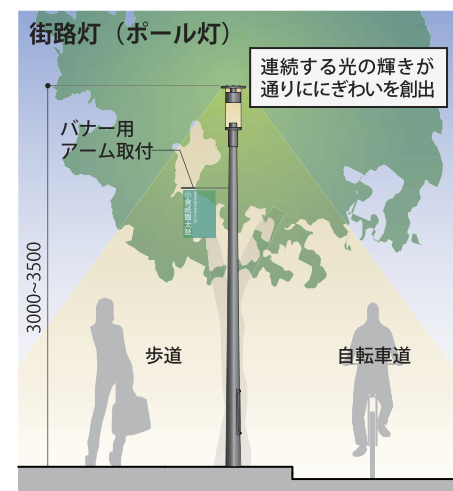
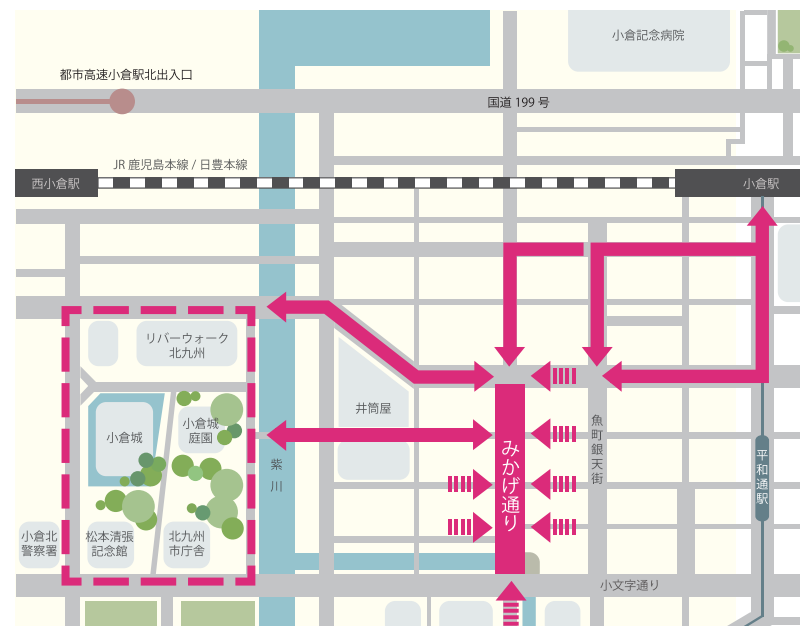


都心と人をつなぐ 洗練されたストリート

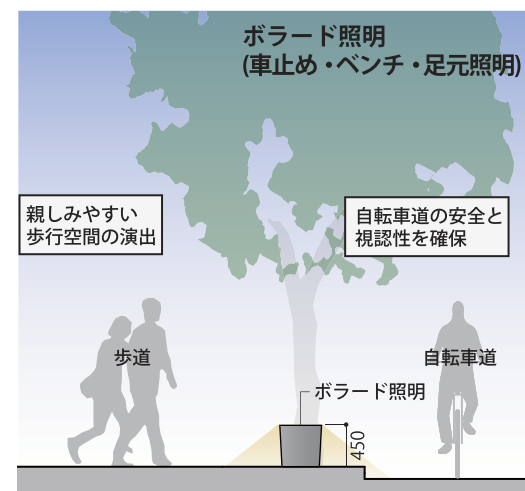
個性的な店舗や大小の建物に囲まれた“みかげ通り”。アーケードや商店、紫川、小倉城など、様々な方面をつなぐ場所という特徴から、行き交う人の流れや表情を取り込みヒューマンスケールの夜間景観を描きました。全体を均一に明るく照らす従来型の照明手法ではなく、光の重心を低く抑え、通り全体に光の陰影を与えることで市民や来訪者が歩きたくなる洗練された光環境を表現しています。

<照明デザインポイント>

- ・適度な輝度感のある街路灯を連続させて通りにつながりとしぎわいを演出
- ・歩道は低位置の光で足元を照らし、通りに光の陰影と回遊性を創出
- ・街路灯は樹木に遮光されず歩道幅員に対して適切な高さを設定
- ・歩道と車道の境界を光で示して自転車道の安全と視認性を確保
- ・沿道の建物や広告物もライトアップし、通りのイメージアップを図る



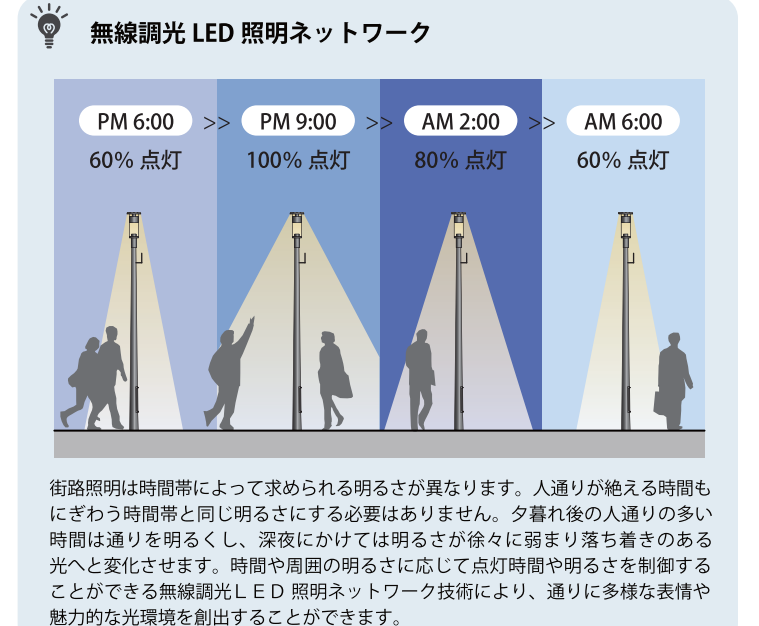
街路灯は樹木で遮光されず通行者の目線で光がつながるように3~3.5mの高さに抑え、適度な輝度感を与えることで通りのにぎわいを創出できます。



ボード照明は車道と歩道の境界をわかりやすく、足元の光は自転車道の安全と視認性を高めることができます。



サインや広告物は色温度や点滅・グレアにルールを設け美観に配慮しましょう。



4-6 室町

魅力ある夜間景観形成の視点

- ・通りの幅員とバランスの取れた街路灯の高さ設定
- ・人が安心できる明るさの確保
- ・歴史情緒を感じさせる、陰影のある落ち着いた雰囲気
- ・旧長崎街道を軸とした、室町エリア内の魅力的な回遊ルート
- ・エリアをつなぐ常盤橋の動線を明確に



旧長崎街道をあかりで彩る 歴史を感じさせる趣きのあかり

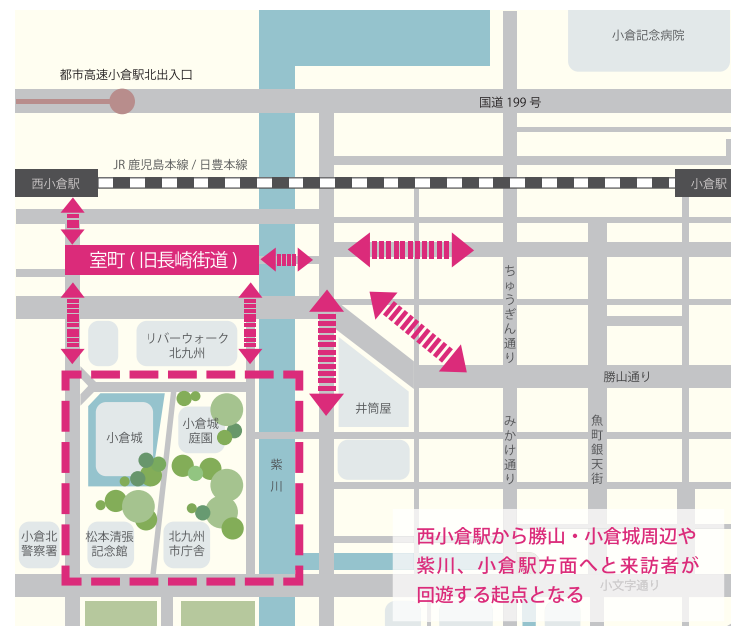
常盤橋から西小倉駅にかけての旧長崎街道。落ち着いた低い色温度と陰影を残した趣のある道路照明を適所に配置することで、歴史を感じる街並みを描きました。歩行者の視線や歩車道の幅員に合わせた高さの道路照明を配置し、市民や訪れる人が親しみを感じる雰囲気演出しています。

<照明デザインポイント>

- ・街並みにあわせたヒューマンスケールの街路灯デザイン
- ・小路は足元を照らすあかりを配置し親しみを感じられる散策ルートを創出
- ・低い色温度と陰影のある照明により歴史的な風情を感じさせる光環境を演出
- ・常盤橋は橋の欄干を活かした足元を照らす光により木の温かな表情を演出



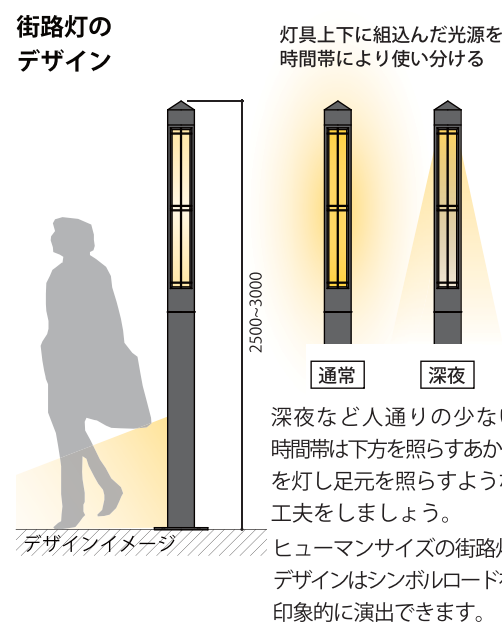
夜間景観イメージ



西小倉駅から勝山・小倉城周辺や紫川、小倉駅方面へと来訪者が回遊する起点となる



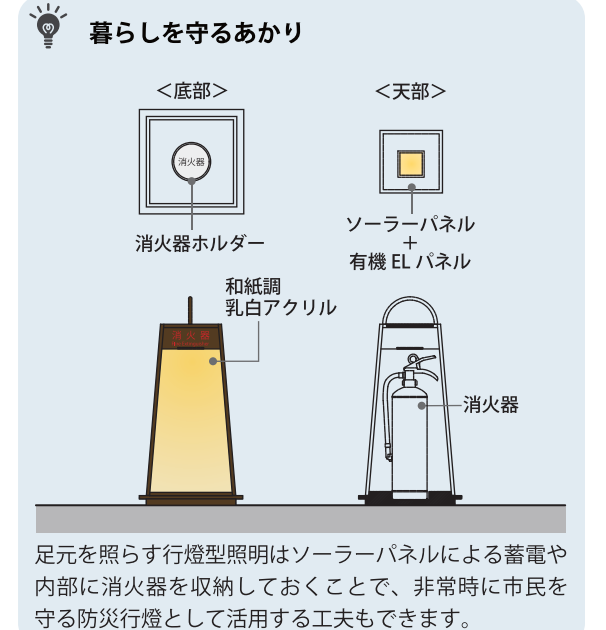
欄干から足元を照らすあかりは旧長崎街道と周囲のエリアをつなぐ動線を明確にし回遊性向上に寄与します。



デザインイメージ



夜間景観イメージ



足元を照らす行燈型照明はソーラーパネルによる蓄電や内部に消火器を収納しておくことで、非常時に市民を守る防災行燈として活用する工夫もできます。

4-7 鷗外橋

魅力ある夜間景観形成の視点

- ・橋で佇むことができる空間創出
- ・橋の特徴を際立たせる照明デザイン
- ・対岸からの見え方への配慮
- ・夜間景観のビューポイントの設定
- ・水辺の潤いを感じさせるライトアップ効果の創出



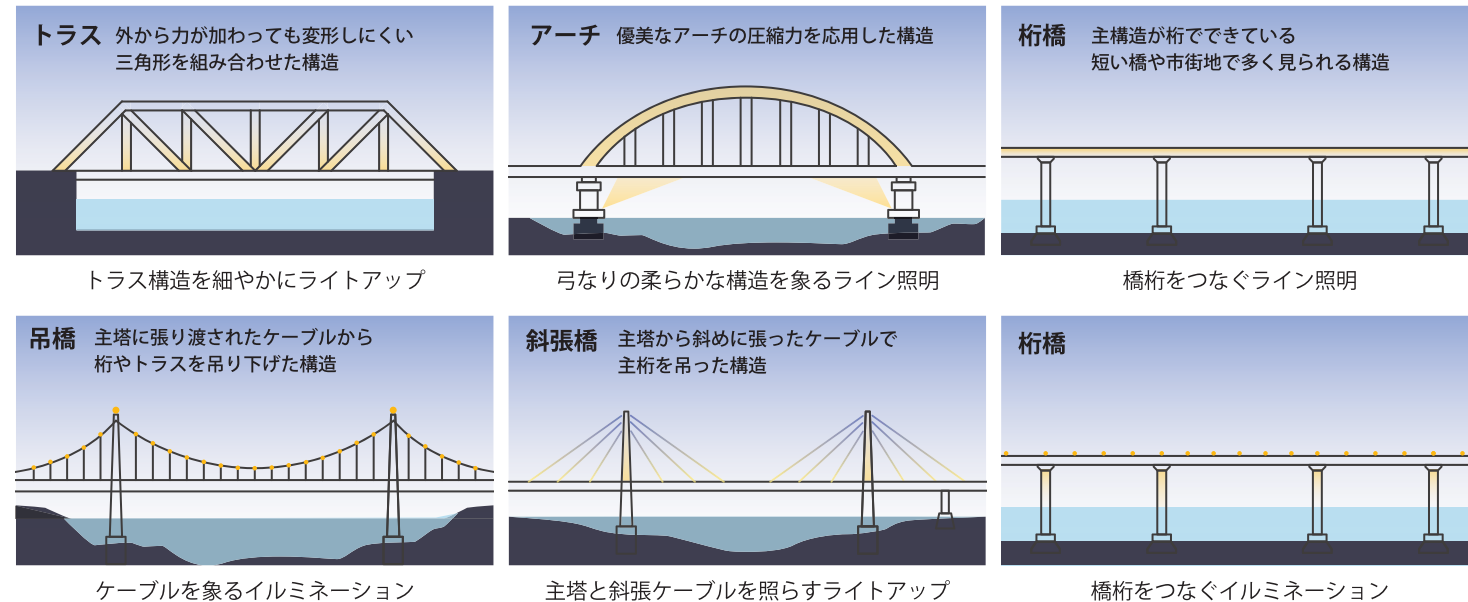
水面への憧れ 紫川の光の架け橋

紫川には自然をテーマにした 10 本の橋が架かっています。それぞれの特徴やそこから見える水景を活かした夜間景観を描きました。水辺と橋梁の光環境を整備することでまちの骨格を明確にでき、夜間の人々の回遊を促進します。都心を流れる紫川の豊かな流れを楽しみながら、人々が安心して散歩できる夜間景観を表現しています。

<照明デザインポイント>

- ・対岸をつなぎ、まちの回遊を高める歩道照明
- ・水面の表情を活かした、水の潤いを感じさせるライトアップ
- ・橋の形状や素材を活かした個性ある照明デザイン
- ・紫川と周辺の魅力ある夜間景観を望むビューポイントづくり
- ・橋上の夜の佇みのスポットづくり

橋の種類による照らし方の例



夜間景観イメージ



主塔とハーブの弦を連想させるケーブルを象徴的に照らすことで川面に映り込む美しいライトアップを創出できます。



現状写真

柱を照らし上げることでアーチ橋の繊細な表情をライトアップしています。

4-8 紫川

魅力ある夜間景観形成の視点

- ・対岸から見る光景を意識した水辺周辺の照明計画
- ・水際を照らす光
- ・連続した光による水辺のつながり
- ・紫川をつなぐ橋梁歩行面の明るさ確保
- ・ベンチや階段、広場など、佇みのための空間演出

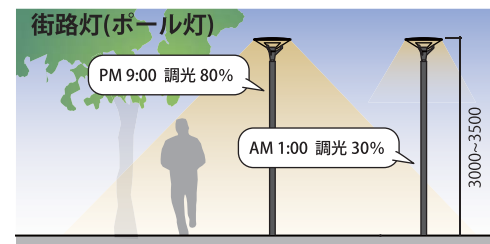
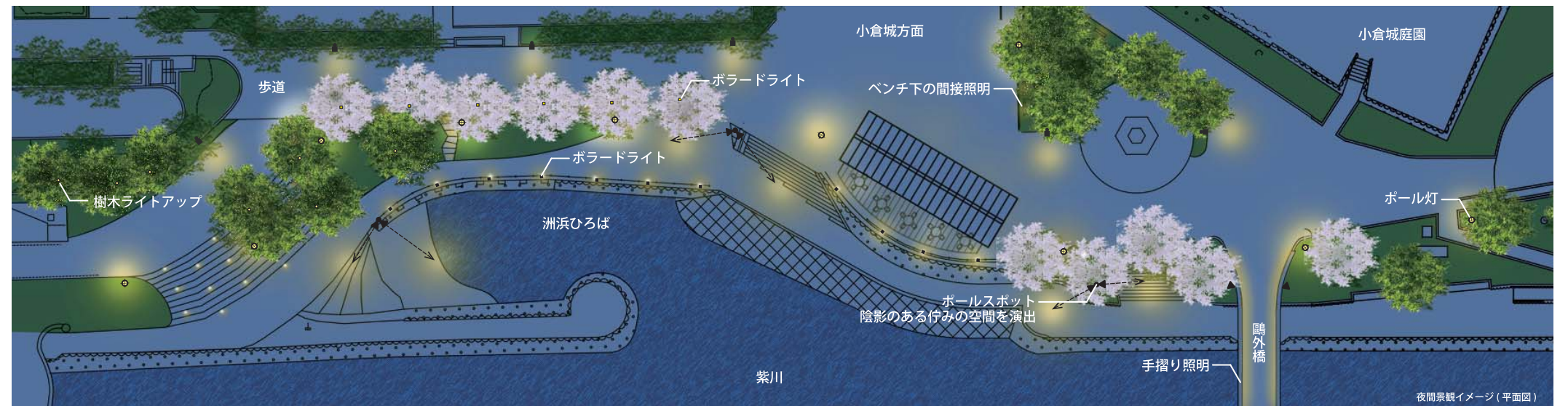


水と光の競演 水上のワイドステージ

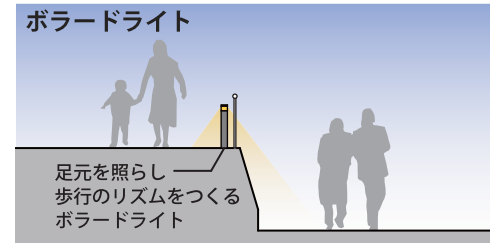
都市と自然が調和する市民の憩いの場所、紫川。夜間は水面に映り込む光景が昼間とは違う魅力をつくり出します。その魅力を楽しむために水辺の空間全体を明るくするのではなく、細やかなあかりを適所に配置することで、誰もが安心して佇める心地よい環境を描きました。紫川に架かる個性豊かな橋をライトアップすることでエリアとエリアがつながり、回遊性を高めることができます。

<照明デザインポイント>

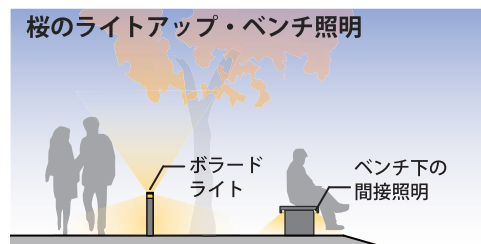
- ・紫川の水面への映り込みを意識した照明計画
- ・足元を照らす光を連続させ、紫川を中心とした軸線を強調
- ・樹木や護岸の表情を取り込み、水辺の視覚的な明るさを創出
- ・親水広場や階段ベンチに光溜まりをつくり佇みの空間を演出
- ・桜のライトアップなど催事に合わせたライトアッププログラム



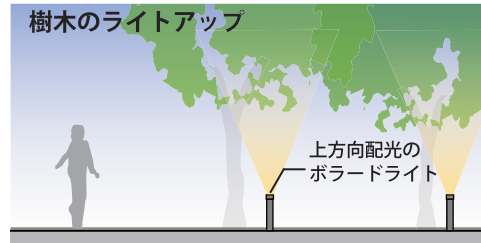
無線調光技術を取り入れた街路灯は時間帯に合わせて水辺の表情に変化をつくり出します。



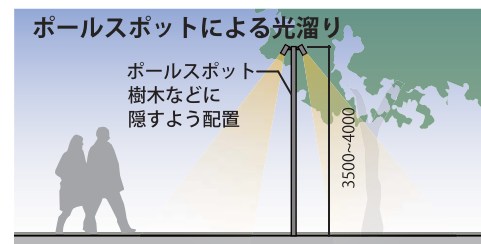
連続する足元のあかりでリズム感をつくりと散策の楽しさを演出できます。



視線より低い位置のあかりは憩いの空間を演出できます。



植栽を照らす光で水辺空間に明るさをだすと親しみやすい水辺空間が演出できます。



高い位置から照らすスポットライトのあかりは佇みの空間を創出します。



モニュメントを照らした視覚的な明るさは広場や通りにアクセントとなる表情を創出できます。



鷗外橋はライトアップされた小倉城天守閣を見ることがのできる絶好のビューポイントです。照明計画を行う上では、視界に照明器具のまぶしさを感じないように配慮することが大切です。



散策の合間み見る特別な光景に人々は驚きや感動を覚えます。噴水のライトアップにより、親水空間の魅力を高め、季節やイベントに合わせた新たな演出を行うことができます。